

*more***Trees**®



2020 年活動報告書

01. 目次 / メッセージ
02. more trees のビジョン
03. 森の現状と課題 / more trees の森
04. more trees の取り組みと SDGs / 2020 年の実績と成果
05. 多様性のある森づくり

森林プロジェクト実施状況

06. 北海道 美幌町 / 長野県 小諸市
07. 鳥取県 智頭町 / 高知県 梶原町
08. インドネシア 東カリマンタン州

普及啓発事業

09. 講演 / イベント / ワークショップ

ものづくり事業

10. オリジナルプロダクト / コラボレーションアイテム / 空間
11. 脱炭素社会にむけて
12. 被災地支援プロジェクト「LIFE311」の軌跡
13. 協賛事例
14. 協賛者様一覧
15. 法人概要

メッセージ

2020年は新型コロナウイルスに翻弄された1年でした。

感染拡大によりロックダウンを実施する国や地域も多く、国外はおろか国内での人の移動も制限され、経済活動にも深刻な影響を及ぼしました。

しかしその一方で、大気汚染が深刻だったインド北部からは数十年ぶりにヒマラヤ山脈が見晴らせるようになったり、イタリアのベネチアでは運河の透明度が戻り、イルカや魚が目撃されるようになるなど、コロナ禍にある世界各地で驚きの報告が相次いでいます。

こうした事例は、これまで地球環境に負荷をかけ続けてきた私たち人間に対する皮肉なメッセージともいえます。

これまでの感染症の多くは、森林破壊を伴う農地の開墾や都市開発などにより、人間と野生生物との距離が接近した結果、哺乳類や鳥類から人間へと感染したことが原因と考えられています。

IPBES (生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム) によると、野生動物が保有する未知なるウイルスは170万種あり、そのうち最大で85万種が人間に感染する可能性がある指摘されています

つまり今後、新型コロナウイルスの感染が収束したとしても、新たなウイルスによるパンデミックが再び発生する可能性は否定できません。

パンデミックや気候変動、自然災害の脅威が高まる中、森林の役割は今後さらに重要になってくると考えられます。

引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

more trees 事務局長 水谷伸吉

森と人がずっとともに生きられる社会を目指して



more treesは

「都市と森をつなぐ」森林保全団体です。

一般社団法人more trees (モア・トゥリーズ) は、音楽家 坂本龍一によって2007年に設立された森林保全団体です。いま世界は、気候変動や生物多様性の危機など、森林の減少がその一因と言えるさまざまな問題を抱えています。状況は深刻で、解決はおろか、改善も容易ではありません。それでも、目の前にあることから取り組むという姿勢を、私たちは大切にします。

more treesは、森林が持つさまざまな機能の回復を目指した保全活動のほか、森からは製品・サービス・情報・体験などを都市に届けること、都市からは森の恵みの対価を受け止めた人々の思いや経済的な対価を森に還すことで、「都市と森をつなぐ」活動を行っています。この循環を生み出し高めていくことが、私たちの考える“森づくり”です。



世界の森

世界では、1秒間にテニスコート15面分の森が消失していています。特に問題となっているのが、豊かな生物多様性を支える熱帯雨林などの減少です。木材の利用を目的とした商業伐採や、農地（プランテーション）や牧草地への転換を目的とした野焼きによる開墾が引き起こす森林火災など、人間の経済活動が熱帯雨林減少の大きな原因となっています。また、地球規模での森林減少は、気候変動に大きな影響を与えています。



森林火災（インドネシア）

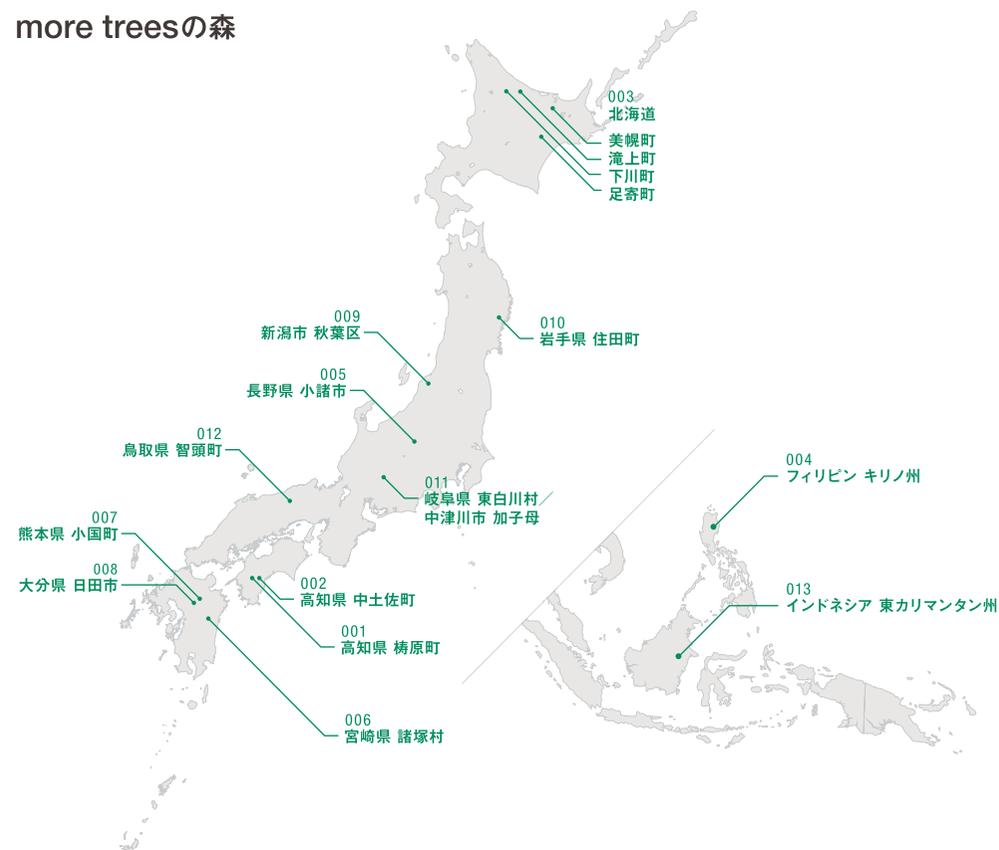
日本の森

日本は国土の約7割が森林に覆われる森林大国です。戦後の木材不足により、国によってスギやヒノキなどの植林が推進されたことで、人工林を中心にこの100年間で日本の森林面積は増加しました。しかし、近年は木材需要が減少し、林業が衰退した今、この先手入れがされないであろう人工林が増えています。また、日本には主要な樹木が500種類以上あるといわれていますが、スギとヒノキの2種類のみで人工林の約7割を占めるまでになっており、森林の多様性が失われている状態です。



手入れが進んでいない人工林

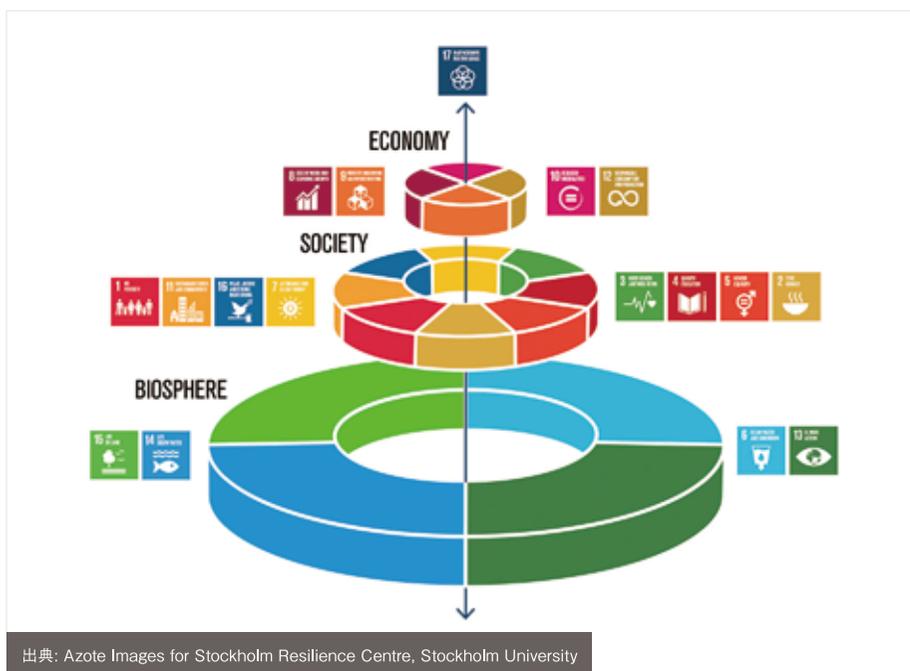
more treesの森



私たちは、国内15か所（11地域）、海外2か所に「more treesの森」を展開し、森の保全活動を行っています。森の保全は、ただ木を伐らないこと、木を植えることだけでは実現できません。地域によってその方法はさまざまであり、活動の主役となるのはその土地に暮らす人々です。私たちは、地域の人々もつ林業の技術や知識を最大限に活かすことで、その土地ならではの森林保全につなげられると考えています。そして、その土地に暮らす人々の生活が経済的にも適切に維持されるよう、方法を一緒に考え、実践のサポートをしています。

more treesの取り組みとSDGs

2015年に国連で採択された「SDGs (持続可能な開発目標)」の概念を表す構造モデルとして、「SDGsウェディングケーキ」と呼ばれるモデルがあります。このモデルでは、3つの階層「経済圏」、「社会圏」、「生物圏」によって構成されており、経済活動は安定した社会に支えられ、その社会は自然資本によって支えられていることが示されています。つまり、自然資本なくして社会や経済活動は成り立つことはできません。森林は、自然資本の中でも陸の生態系を担う重要な位置づけを占めるだけでなく、水資源や気候変動にも大切な役割を果たします。私たちは、森林が持つ多くの恵みをさらに引き出しながら、都市と森が寄り添う社会に向けて、より一層励んでいきたいと考えています。



2020年の実績と成果

2020年も森林保全活動をはじめ、セミナー、イベントやワークショップ、現地へのツアーなど都市と森をつなぐさまざまな活動を実施いたしました。

植林した本数

12,520 本



植林した面積

87,200 m²



除伐、間伐した面積

140,200 m²



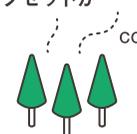
講演の延べ聴衆
オンラインでのアーカイブ視聴含む

約 8,900 人



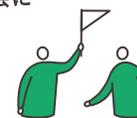
森林によってカーボンオフセットが
実現した量

702 t



地域での森づくり講習会に
参加した人数

97 人



シンポジウムや講義に
登壇した回数

12 回



木育ワークショップを
体験した人数

約 120 人





日本は戦後、木材需要に応えるためにスギやヒノキを植林した結果、森林面積は増えたものの、スギ・ヒノキの2種類で人工林の7割を占めるなど、単一林が増えたことで森の多様性を欠いてしまいました。

生活スタイルが変化することで木材需要が低下し、林業が衰退した今、この先も手入れがされないであろう人工林が増えています。また、森林を構成する樹種が単一であること自体がさまざまなリスクにつながっています。

このようなリスクを回避すべく、more treesは2018年より「多様性のある森づくり」に取り組んでいます。

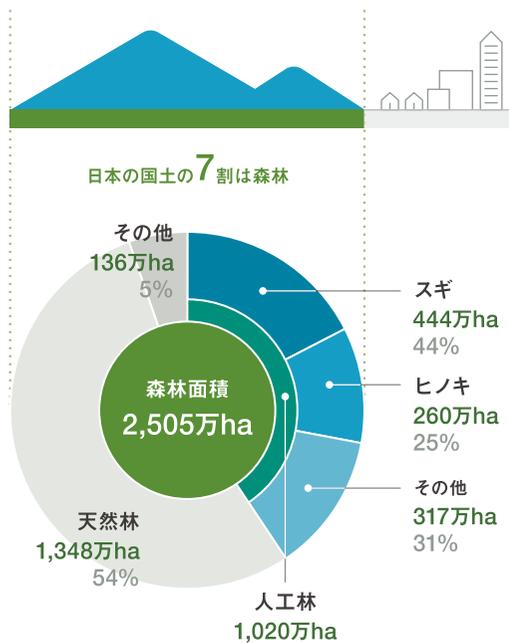
単一な樹種の森が抱えるリスク

環境面でのリスク

病害虫が拡大しやすい。自然災害の防止機能が最大限発揮されない。

経済面でのリスク

特定の樹種の木材価格が下落した場合に、経済的に大きなダメージを受ける。



出典：林野庁

「多様性のある森づくり」には、収穫期を迎え伐採された土地や、木材生産に適さない土地に植林されたために今後も手入れされる見込みがないスギやヒノキの森を、単一樹種のみでなくさまざまな樹種を混在させた森林に更新していく必要があります。針広混交林や広葉樹林に転換させていくためにはいくつかの手法があり、地域や目的に合った手法で施業に取り組んでいます。

植林施業例

人工林皆伐地への広葉樹植栽



人工林の強度間伐・樹下植栽・天然更新





地域と協働で進める「多様性のある森づくり」の取り組みは徐々に全国に広がっています。その中でも今年、特に動きがあったプロジェクトについてご報告します。

北海道 美幌町



長野県 小諸市



project 003
北海道 美幌町

美幌町は北海道東部に位置し、阿寒摩周国立公園内に位置する美幌峠をはじめ、多くの観光客が訪れる自然豊かな町です。2020年はあいおいニッセイ同和損害保険株式会社のサポートにより登栄（といえ）地区にて植林活動を実施し、5ヘクタールの土地にミズナラ、ヤチダモ、シラカバの3種類を合計7,690本植林しました。また、北海道大学の吉田俊也教授に立会いいただき、2019年植林地の生育調査を実施しました。一部でノウサギによる食害の影響はあるものの、苗木が目立って枯れていることもなく、全体的に植林木の生育は順調といえる状態でした。引き続き経過を見ながら、さらに植林を継続していく予定です。



生育調査



ヤチダモの苗

project 005
長野県 小諸市

小諸市は雄大な浅間山（あさまやま）の南斜面に位置する歴史深い街です。more treesは2009年から、浅間山の中腹、標高1,300m付近に広がる天狗温泉周辺の森で保全活動に取り組んできました。2019年10月に東日本を襲った台風19号は長野県に大きな被害をもたらし、小諸市の森林も風倒被害の影響を受けました。これを受け、風倒被害の跡地への植林を開始。三井住友カード株式会社のサポートにより、佐久森林組合が主体となって1.1ヘクタールの土地に2,750本のカラマツを植えました。引き続き、植林および育林を継続していく予定です。



三井住友カードの森



植樹体験



project 012

鳥取県 智頭町

急峻な中国山脈に囲まれ、鳥取砂丘を育んだ千代川（せんだいがわ）の源流に位置する鳥取県 智頭町（ちづちょう）は、350年以上の植樹の歴史を持つスギの町です。

溪畔林（溪流沿いの森林）は、溪流や下流域の生態系にも影響をあたえることから、特に保全の重要性が高い森林です。

そこで日本ロリアル株式会社キールズ事業部のサポートのもと、天木森林公園内の谷筋周辺のスギ人工林を強度間伐し、林床にキハダ、ヤマザクラ、イタヤカエデ、ウリハダカエデ、ホオノキ、ケヤキを植林しました。また、近年増加している植林木に対する鹿による被害への対策として、植えた苗木の周囲に鹿対策のネットを設置しました。

智頭町では今後も溪畔林の保全を目指した森づくりに取り組んでいきます。

鳥取県 智頭町



高知県 梼原町



作業が完了した施業地



植樹体験

project 001

高知県 梼原町

四万十川（しまんとがわ）の源流部に位置する梼原町（ゆすはらちょう）は、気象条件が整えば眼下に雲海を望めることから、「雲の上の町」とも呼ばれています。坂本龍馬脱藩の地として、また建築家・隈研吾氏の設計した建築物が多くあることでも知られています。

梼原町はその昔、「梼（ユス）」が多く自生していたことから、梼原という地名になったと言われています。しかし、そんな町と関わりの深い「梼」は、残念ながら現在、梼原町にはほとんど残っていません。そこで「梼」を復活させつつ、梼原町の地形・気候にあったさまざまな広葉樹も植林し「多様性のある森」をつくることを目的に、2019年秋にクラウドファンディングサイト「A-port」で支援を呼びかけ、無事に目標額を達成しました。2020年4月には、0.5ヘクタールの水源地に梼（ユス）はじめ、ケヤキ、トチ、ホオノキ、カエデなど1,250本の植林が完了しました。



梼（ユス）の苗



作業シーン

project 013

インドネシア 東カリマンタン州

「森の人」 オランウータンが暮らす豊かな熱帯雨林

インドネシアの熱帯雨林はアジア最大規模で、その森林面積は地球上に残存する熱帯雨林の約1割を占めます。しかし過去40年にわたる過剰な森林伐採や森林火災などにより、急激に森林消失が進んでいます。その大きな要因の一つが、パームオイルなどの生産を目的とした開墾のための火入れと、その延焼火災です。パームオイルは食用油や洗剤など、私たちの生活に身近な製品の原料に多く使われています。こうした生産物に端を発した火災の発生による森林消失は、日本に暮らす私たちにとっても決して無関係ではありません。

インドネシア 東カリマンタン州

カリマンタン（ボルネオ）島の豊かな生態系を育む熱帯雨林には、インドネシア語で「森の人」を意味するオランウータンなどの絶滅危惧種を含む多くの動植物が生息していますが、度重なる森林火災等で生息地を奪われているのが現状です。こうした状況に、more treesは火災跡地等への森林の再生を目指して、オランウータンの保護活動を行う現地の財団とともに、2016年より「オランウータンの森再生プロジェクト in インドネシア」を開始しました。

2020年は2ヘクタールの土地にオランウータンの餌となる果樹や在来種を計800本植林しました。

また2020年2月には現地ツアーを実施し、植林体験やオランウータンのリハビリ施設の見学、熱帯雨林の散策、パームプランテーションや石炭採掘地の見学などを通じ、インドネシアの森をめぐる現状を知っていただくきっかけとなりました。

今後も、植林活動やツアーを通じて、熱帯雨林と私たちの関わりを知り、行動につながるきっかけを創出し続けていきたいと考えています。



リハビリ中のオランウータン



植樹体験



石炭採掘地の見学



講演／イベント／ワークショップ

日本や世界の森林事情をはじめ、森林や木材の魅力、私たちの暮らしと森とのつながり、社会貢献や地域との協働など、さまざまな観点から森について伝える活動を続けています。

こうした学びや体験の場が、森や木への関心を高め、それぞれの立場から次の一歩を踏み出すためのきっかけになると考えています。

2020年は新型コロナウイルスの影響で、オンラインでの開催が中心となりました。



第7回木育サミットin新木場



BIOTOP10周年記念イベント



スプーンづくりワークショップ

セミナー / 講演 / シンポジウム

2020年1月14日
桑沢デザイン研究所
「スペースデザイン特論」

2020年2月8日
「第7回木育サミットin新木場」
(主催：認定NPO法人芸術と遊び創造協会 / 東京おもちゃ美術館)

2020年6月27日
「スキルアップセミナー」
(主催：東京学芸大学附属国際中等学校ポランティア部)

2020年8月5日
「企業との協働による脱炭素社会と森林保全の実現」
(主催：株式会社メンバーズ)

2020年8月7日
「シチズン・ウィーク・ジャパン 2020 Living Soils (生きた土壌)」
(MHD モエ ヘネシー ディアジオ株式会社 社内講演)

2020年10月5日
「WOOD CHANGE オンライントークセッション」
(主催：楽天株式会社)

2020年11月3日
「隈研吾校長 特別講義」
(主催：高知県立林業高等学校)

2020年12月19日
「BIOTOP10周年 オンライントークセッション」
(主催：株式会社ジュン)

イベント / ワークショップ

2020年12月11日～13日
目黒街角クリスマス
スプーンづくりワークショップ
@スタジオEASE

他



オリジナルプロダクト/ コラボレーションアイテム/空間

日本は国土の約7割が森で覆われる森林大国でありながら、輸入材との競争や木材需要の低下から国産材の価格が下落し、林業は衰退の一途をたどっています。適切な手入れがされずに放置されたままの森は、環境や生態系のバランスが崩れ、土砂災害などの被害をもたらす原因にもつながります。

こうした現状を改善するため、more treesでは間伐などの森林整備とともに国産材の活用を推進し、デザイナーや地域の職人と協働でオリジナルプロダクトの企画・製造・販売を行っています。

また、国産材などの森の恵みを活用したノベルティ、コラボレーションアイテムの企画・開発・製造や、国産材を活用した空間デザインから店舗什器の製作、木材の提供まで、さまざまなシーンで国産材利用のきっかけづくりをサポートしています。



高輪ゲートウェイ駅 開業記念ノベルティ

コラボレーションアイテム事例

高輪ゲートウェイ駅
開業記念ノベルティ

Afternoon Tea LIVING
クリスマスノベルティ

東京ステーションホテル
チャリティオーナメント

株式会社アイジーコンサルティング
コースター

他

空間・什器事例

THE BODY SHOP
店舗什器 (全94店舗)

コスメキッチン
店舗什器 (コレド日本橋店 他)

ハイジ・インターフェイス株式会社
新オフィス メインデスク

山口情報芸術センター特別企画：坂本龍一+YCAM InterLab《Forest Symphony》
展示用什器

他



世界の動向

世界の平均気温上昇を「2度未満」、できれば「1.5度未満」に抑えることを目標に掲げたパリ協定が2020年より本格的に始動しました。また、コロナパンデミックにより後退した経済活動をもとの形ではなく環境に配慮した形で復興する「グリーンリカバリー」などの政策も打ち出され、世界規模で脱炭素社会に向けた動きが加速しています。

日本の動向

日本もパリ協定に参加し、2030年までに温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減する目標を掲げています。しかし、日本が掲げた目標では2度未満に抑えどころか3～4度の上昇が見込まれる基準にあることから批判的な声も出ていました。そんな中、2020年10月に菅義偉首相が2050年までの温室効果ガス排出量実質ゼロ目標を宣言し世界に遅れをとりながらもようやく脱炭素社会の実現に向け歩み始めました。

2021年には炭素税や排出権取引などに代表されるカーボンプライシング（炭素に価格をつけること）の導入に向けた議論を開始することも発表され、日本国内においても一層の脱炭素社会に向けた動きが予想されます。

脱炭素社会に向けた森林の役割

森林はCO2を吸収し固定する機能を持っており、気候変動対策としても大きく寄与することが知られています。実際にパリ協定の目標においても、26%のうちの2%が森林吸収源によって確保することとなっています。

森林を通じて気候変動へ貢献する方法としては、人工林での間伐等を実施し持続可能な森林経営を促進することや植林によって吸収源を増やすことなどが挙げられます。つまり、森林を保全することは気候変動対策への貢献に直結するのです。

加えて脱炭素社会に向けた手段の1つとして「カーボン・オフセット」の活用もあります。カーボン・オフセットとは、企業活動等で削減しきれず排出したCO2を別の場所での吸収/排出削減量でオフセット（相殺）することです。カーボン・オフセットはCO2排出量に見合った金額を支払い、カーボンクレジット（CO2を価値化したもの）を購入することでオフセット（相殺）されます。

脱炭素社会の実現に向けた施策の1つとして、2020年も多くの企業にカーボン・オフセットを活用いただきました。



※カーボン・オフセットには森林による吸収量の他に、省エネにより実現した削減量や再生可能エネルギーにより発電された環境価値をクレジット化したものもあります
more trees は森林由来のクレジットに特化して取り扱っています

導入事例

ECO泊
エコ泊

株式会社スーパーホテル
公式ホームページからご予約いただくことで、宿泊に伴い排出するCO2をオフセット（エコ泊）

株式会社ニューポート
事業活動（商品の輸入・配送、提携倉庫での商品保管等）により排出されたCO2をオフセット

mT MARK
オフセットで使用できる「mTマーク」

ANA ホールディングス株式会社
株主総会の開催に伴う電力・ガス使用により排出するCO2をオフセット

ウィルライフ株式会社
国産材の棺「エコフィン [WILL]」をご利用いただくことで、葬送に伴い排出されるCO2をオフセット

「LIFE311」とは

more trees被災地支援プロジェクト「LIFE311」は、東日本大震災発災後に岩手県住田町が町単独で建設した木造仮設住宅の建設費用を支援し、同住宅に東北の厳しい冬を乗り切るための木質ペレットストーブを寄贈することを目的にスタートしました。

仮設住宅の閉鎖に伴い、同プロジェクトは2020年3月末を以って終了いたしました。これまでに寄せられた支援金は、総額240,318,079円となりました。皆さまからは多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

住田町

岩手県住田町は、岩手県の東南部に位置する人口約5,300人の林業が盛んな町です。住田町は、いつか来る災害に備え、地域の豊富な森林資源を有効活用した「木造仮設住宅」の構想を東日本大震災前から進めていました。そして震災直前の3月初旬には図面や仕様はほぼ完成していました。地元の木材を使用し、地元の工務店が施工する木造仮設住宅の建設は、地域および林業の活性化にもつながる取組みです。

住田町は、沿岸部の大船渡市、陸前高田市に隣接しており、結びつきの深い地域の被災者のみなさんを早く避難所生活から解放して差し上げたいという想いから、発災からわずか3日後に木造仮設住宅の建設が決定されました。

経緯

- 2011年 3月11日 東日本大震災発災
- 3月13日 住田町 木造仮設住宅 建設決定
- 3月22日 住田町 木造仮設住宅 着工
- 4月18日 LIFE311 本格始動・ウェブサイト公開
- 4月25日 火石団地 13戸完成
- 5月2日～ 順次 入居開始
- 5月6日 本町団地 17戸完成
- 5月23日 中上団地 63戸完成
(建設戸数 計93戸、入居者261名)
- 7月29～31日 六本木ヒルズアリーナにて復興支援イベント「more trees 木を知ろう。森を知ろう。～木造仮設住宅に入ってみよう～」を開催
- 10月～順次 ペレットストーブ設置
- 2013年 6月/11月 「丸の内朝大学」受講メンバー訪問
- 2014年 5月/10月 「丸の内朝大学」受講メンバー訪問
- 8月～順次 中上団地
退去した希望者へ払い下げ開始
- 2016年 11月2日 火石団地 閉鎖
全13戸 払い下げ決定
- 2018年 4月25日、26日
「今後の仮設住宅支援に関する説明会」開催
- 2020年 3月31日 仮設住宅の供与期間終了に伴い
LIFE311終了
- 7月11日 最後の入居者が退去





商品やサービスと連動したご寄付

株式会社ユナイテッドアローズ

- 「Reduce Shopping Bag Action」
店舗にてショッピングバッグをご辞退いただいたお客様の数に応じたご寄付
- 「UNITED ARROWS LTD. ONLINE STORE ポイント募金」
希望したお客様のオンラインストアポイントをご寄付

株式会社I-ne

- 「BOTANIST」の売り上げの一部をご寄付

株式会社インテリアオフィスワン

- レビュー投稿数に応じたご寄付



法人サポーター

ヴィーナ・エナジー・ジャパン株式会社

- 日本国内で太陽光発電事業を展開

株式会社菓匠三全

- 「萩の月」をはじめとする約120種類のお菓子の製造・販売

株式会社スターテック

- コンサートやイベント等における音響装置の設置・音響効果の演出

企業の森

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

- Web約款を選択し、ペーパーレス化へ協力していただいたお客様の数に応じて森づくりへご寄付（活動地域：北海道美幌町）

三井住友カード株式会社

- 「森のためにできること」
-ご利用代金明細書のWEB化を推進するとともに森を育む活動「森のためにできること」として、森づくりへご寄付（活動地域：岩手県住田町 長野県小諸市 宮崎県諸塚村）

カラース株式会社

- 「NEXT 20」
-社会貢献活動の一環として森づくりへご寄付（活動地域：インドネシア東カリマンタン州）





協賛者様一覧

Supporters of More Trees

 あいおいニッセイ同和損保 <small>MS&AD INSURANCE GROUP</small>	 三井住友カード <small>三井住友カード株式会社</small>	BIOTOP <small>株式会社ジュン</small>	 <small>ヴィーナ・エナジー・ジャパン 株式会社</small>	 <small>株式会社ニューポート</small>	SUPERHOTEL <small>株式会社スーパーホテル</small>	 <small>UNITED ARROWS LTD.</small> <small>株式会社 ユナイテッドアローズ</small>				
<small>あいおいニッセイ同和損害保険株式会社</small>	 <small>青山商事株式会社</small>	 <small>日本ロレアル株式会社</small>	OUTERIOR TIGER <small>Design company of outdoor specialty.</small> <small>アウトドアタイガー株式会社</small>	BOTANIST <small>株式会社I-ne</small>	 <small>TRUNK (HOTEL)</small> <small>株式会社TRUNK</small>					
 <small>ユニプレス株式会社</small>	 三井ダイレクト損保 <small>三井ダイレクト損害保険 株式会社</small>	 <small>Afternoon Tea</small> <small>株式会社サザビーリーグ</small>	 <small>ヤフー株式会社</small>	 <small>株式会社 インテリアオフィスワン</small>	 <small>アモーレパシフィック ジャパン株式会社</small>	 <small>株式会社ecoloica</small>	 <small>株式会社スターテック</small>	 <small>株式会社栗匠三全</small>	 <small>野原ホールディングス 株式会社</small>	 <small>ウィルライフ株式会社</small>
 <small>株式会社IMCF</small>	 <small>スピークス株式会社</small>	 <small>株式会社セレモニー</small>	 <small>日本ホテル株式会社</small>	 <small>株式会社 オリエンコーポレーション</small>	 <small>株式会社 エアークローゼット</small>	 <small>株式会社スタンダード</small>	 <small>株式会社STYLE VOICE</small>	 <small>伊藤忠リーテイルリンク 株式会社</small>	 <small>大昭和紙工業 株式会社</small>	 <small>株式会社 クリックローバー</small>

株式会社コロット | 株式会社3and garden | 玉川高島屋S・C商店会 | 株式会社Francfranc | 全日本空輸株式会社/ANAホールディングス株式会社 | マザーウォーター株式会社
 株式会社中島重久堂 | 一般財団法人PEACE DAY | 医療法人社団 湘南太陽会 | 株式会社アンビエンテック | 株式会社五色 | 株式会社スタイリングライフ・ホールディングス | 株式会社ブギ | 株式会社イワタ
 味の素株式会社 | 株式会社ジョア | エイベックス・グループ・ホールディングス株式会社/エイベックス・エンタテインメント株式会社 | アサヒベット株式会社 | 株式会社NTTスマイルエナジー | 株式会社ONIBUS
 株式会社TOTONOU | 株式会社TwoTrees | 株式会社クレコス | 株式会社日本グリーンエナジー | 株式会社リソウ | 株式会社アンプラー・ジュインターナショナル | silvermoon

※本報告書に記載の法人・個人様の名称につきましては、敬称を省略させていただいております。何卒ご了承ください。



これからも「都市と森をつなぐ」をキーワードに活動を進めてまいります。
引き続きご支援の程、よろしくお願いいたします。

法人概要 Corporate Profile

一般社団法人 more trees

151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-9-11 フレンシア外苑西 103

Tel 03 (5770) 3969

Fax 03 (5770) 3896

Mail info@more-trees.org

URL <https://www.more-trees.org>

事業内容

- ・国内外での森林保全（間伐／整備、植林など）
- ・森林に関するセミナー・イベント、森林を訪れるツアーの企画・開催
- ・国産材アイテムの企画・販売
- ・森林由来のカーボン・オフセットサービスの提供
- ・被災地支援活動
- ・その他、森林に関する事業全般

設立

2007年7月19日

役員

代表理事 坂本龍一

理事 池田正昭、見城徹、石橋直樹

監事 山崎卓也

FSC マーク